木更津読書プラン

ー第４次木更津市子ども読書活動推進計画ー

平成３１年４月

木更津市教育委員会

木更津読書プランに寄せて

木更津市教育委員会教育長　　髙 澤 茂 夫

子ども達を取り巻く生活環境はますます急速に変化を遂げ、デジタル端末の普及等による子どもの読書環境への影響や、読書への関心度の低下、更には発達の段階に応じた読書習慣の形成が不十分であるなどの課題が指摘されています。

子どもの読書活動を社会全体で支援するために平成１３年１２月に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」と基本理念を示しています。

これを受けて木更津市教育委員会は、５カ年を計画期間として、平成１６年に「第１次木更津市子ども読書活動推進計画」を、平成２１年に「第２次推進計画」を、平成２６年に「第３次推進計画」を策定し、諸施策を推進してまいりました。この間、市立図書館や学校図書館等の環境の整備・充実や連携の強化、各種おはなし会等の事業や講座の開設、読書相談員の小中学校への配置、読書ボランティア活動の充実等を図ることで、子ども達の読書環境を充実させ、子どもたちの読書活動の支援に努めてまいりました。この度、この計画に改訂を加え、平成３１年度から５カ年を計画年度とする「第４次木更津市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

一方、木更津市心の教育推進協議会が進める「生活(規範)意識調査」によれば、ボランティア体験・目撃体験と並んで、読書数が多いほど「規範意識」、「行動意欲」が高いということが明らかになっています。

この第４次木更津市子ども読書活動推進計画が、木更津市トライアングル子育て運動の担い手である家庭、地域、学校において活用され、子どもの読書活動がさらに充実することを願います。

― 目　次 ―

第１章　第３次木更津市子ども読書活動推進計画における成果と課題

１．家庭における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・1

２．地域における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・1～5
（１）図書館
（２）公民館

３．学校における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・6～10
（１）子どもの読書習慣の確立
（２）子どもの言語能力の育成

第２章　第４次木更津市子ども読書活動推進計画について

Ⅰ　基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

Ⅱ　計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

Ⅲ　基本方針に対する具体的な取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・11～15
１．家庭・地域・学校等を通じた連携体制の確立・・・・・・・・・・・・11～12
（１）家庭
（２）地域
（３）学校

２．読書環境の整備・充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13～14
（１）家庭
（２）地域
（３）学校

３．読書習慣の形成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14～15
（１）家庭
（２）地域
（３）学校

Ⅳ　第４次木更津市子ども読書活動推進計画の概要・・・・・・・・・・・・16

第１章　第３次木更津市子ども読書活動推進計画における成果と課題

※成果は○で、課題は●で表記しています

１．家庭における子どもの読書活動の推進

○市立図書館（以下「図書館」と表記します）主催の各種おはなし会や、公民館で開催された各種講座などにより、家庭における読書活動を推進しました。

○健康推進課主催の乳児健康診査に図書館職員が訪問し、絵本の読み聞かせや乳児におすすめの絵本を紹介し、乳児期から言葉にふれることの重要性について保護者に説明をしました。

○図書館では読書活動が習慣となるよう、自分で読んだ本を記録できる「読書手帳」を夏季休業期間に配布しました。（平成３０年度・先着５００名）また、図書館の公式サイトから書式をダウンロードし、好きなページ数で作成できる「読書手帳ＷＥＢ版」を、児童用と大人用の２種類で公開しました。（平成３０年度）

●乳児期から言葉や絵本に親しむきっかけ作りとして、図書館の職員が乳児健康診査の会場で、乳幼児と保護者1組ずつへ絵本の読み聞かせを行い、絵本をプレゼントするブックスタート事業の充実が求められます。

●ホームページや図書館だよりなどを活用し、家庭や保護者へ読書に関する情報が届くよう情報発信に力を入れることが必要です。

２．地域における子どもの読書活動の推進

（１）図書館

①主催事業の充実

○「おはなし会」（素話及び絵本の読み聞かせ）を、対象年齢別に毎週木曜日の午後に実施しました。（昭和５９年度～）

○「赤ちゃんといっしょのおはなし会」（わらべうたや手遊び、絵本の読み聞かせ）を、０歳から２歳児までの乳幼児とその保護者を対象に、毎月第１・３・５木曜日に実施しました。（平成１７年度～）

○健康推進課主催の乳児健康診査に訪問し、絵本の読み聞かせや乳児におすすめの絵本を紹介しました。平成３０年度からは、受診者１組ずつに絵本の読み聞かせと図書館作成のブックリスト「はじめての絵本」を配付しました。

○市内の公立および市立保育園への訪問、来館によるおはなし会を実施しました。（昭和６０年度～）

○子どもの本や子どもの読書活動に関心のある大人を対象に、児童文学作家や研究者等を招いて行う「児童文学講座」や、図書館職員が講師となり、乳児期から言葉に出会うことの重要性や、乳児期に出会ってほしい絵本について話す「絵本講座」を実施しました。

○夏季休業期間に「夏休み企画・図書館を楽しもうよ！」として、毎年好評の「工作教室」と「こわ～いおはなし会」（平成１４年度～）を、平成２９年度からは新規事業として「１日図書館員体験」を開催しました。

○「工作教室」では、参加者の年齢によって難易度を分けることにより、幅広い参加者を得ることができました。
○「こわ～いおはなし会」では、少し怖い話をテーマに、素話や絵本の読み聞かせ、紙芝居を行いました。
○「１日図書館員体験」では、小学校高学年と中学生を対象に、本のフィルムカバーかけ、カウンターでの本の返却業務や調べものなど図書館の仕事を体験する内容を実施しました。平成２９、３０年度は定員を大幅に超える申し込みがあり、実施日を増やして、より多くの希望者を受け入れました。
○中学生以上を対象とした「ボランティア講座」は、視覚障害者のための点訳資料や音訳資料の作成について学ぶ講座で、図書館を拠点に活動するボランティアグループを講師に迎え開催しました。
○夏季休業期間に「読書手帳」を先着５００名に配布し、自分で読んだ本を記録することで、読書に対する楽しみや、読書の習慣化の推進を図りました。

（平成３０年度）

●乳児期から言葉に親しむような環境づくりのため、ブックスタート事業の充実が必要です。

【おはなし会実施状況（平成２９年度）】

おはなし会	95回開催	729人参加	
赤ちゃんといっしょのおはなし会	52回開催	944人参加	
乳児健康診査おはなし会	36日訪問	1,258人参加	
保育園訪問おはなし会	62日訪問	115回開催	2,660人参加
保育園来館おはなし会	17日来館	29回開催	704人参加

児童文学講座

絵本講座

読書手帳

工作教室

1日図書館員体験

②図書資料の充実

○基本図書の買い替えや、新刊図書の購入など、図書館資料収集要綱にのっとり、絵本から読み物、ノンフィクションまで幅広くそろえました。

○図書館の児童室では、子どもたちが本を選びやすいようにレイアウトを工夫しました。絵本や幼年向きの読み物などは、表紙が見えるように置くことで子どもの興味関心を引くので､おすすめの本は積極的に表紙が見えるように配置しました。

○平成２６年度には幼年童話コーナーを作り、絵本から物語への移行がスムーズにできるようにしました。同コーナーは小学校低学年の利用が多く、子どもたちにとって本が選びやすくなったように見受けられます｡幼年童話は利用が多いので、良質な基本図書を中心に積極的に補充しました。

○おすすめの絵本コーナーや、小中学生へのおすすめの本を対象学年別に紹介しているコーナーは、夏季休業期間を中心に蔵書の充実を図りました。

○近年出版される児童書の大型化に伴い、安全確保のために書架の棚板を一部補強しました。

○小中学校からの要請に応じ、教科書に対応した関係図書や、おまかせ図書館便用の図書の収集を積極的に行いました。

●公民館図書室の活性化のため、更なる図書資料の充実が必要です。

③広報・啓発活動の推進

○毎年夏季休業前に､小中学生を対象にしたブックリスト｢夏休みにおすすめの本」を作成し、市内公立の全小中学生に配付をしました。（平成１６年度～）また、ブックリストに夏季休業期間に実施する子ども向け行事の案内を掲載し、多くの対象児童及び生徒へ周知できるようにしました。

○図書館のホームページのリニューアルや市の*デジタルサイネージを活用し、図書館主催事業の案内などの情報提供を行いました。

○図書館報「みんなの図書館」を年４回発行し、図書館の仕事の紹介や事業案内、事業報告などのお知らせに活用しました。

○毎年数館の公民館から要請を受け､公民館の講座へ講師として参加協力しました。

○学童クラブや育児サークルからの要請により、おはなし会や工作教室を通して、読書の楽しさ、図書館の利用について啓発活動を行いました。

○平成２８年度から「木更津市生涯学習フェスティバル」に参加し、絵本の読み聞かせ、図書館で作成しているおすすめの絵本リストの配布などを行い、読書活動及び図書館のＰＲに努めました。

○平成２６年度から、富来田公民館図書室へ月に２～４回職員を派遣し、図書の整備、富来田公民館で開催される育児広場でのおはなし会の補助、利用者からの読書相談等に応じました。

○生涯学習課主催の「保育ボランティア養成講座」で絵本の読み聞かせについての講話をしました。（平成２９、３０年度）

＊デジタルサイネージ…屋外や公共施設の場所で、液晶ディスプレイ等の映像機器を使って、情報を発信する電子看板のこと。

●ホームページや図書館だよりを活用し、広報活動の更なる強化と、通常の読書活動が困難な子どもへの対応として、*マルチメディアデイジーの利用についての周知を積極的に行うことが求められます。

④職員研修、研究の充実

○図書館職員は、県立図書館や千葉県公共図書館協会が主催する研修に参加し、研鑽を積みました。

○４市の職員で構成する君津地方社会教育研究会でも、図書館部会を中心に年に数回、図書館が抱える課題について研修や研究、討議を行いました。

○毎月１回、近隣の自治体職員等による自主研修グループで、素話や絵本の読み聞かせについて勉強会を行い、日々の業務に生かしました。

⑤学校図書館との連携・協力

○平成１３年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されて以来、図書館と学校との連携を一層深めてきました。平成１６年度に始まった*「特別貸出」と*「おまかせ図書館便」も安定した利用があります。

○学校からの要請に応じ、学校へ訪問しおはなし会を実施しました。

○小中学校の職場体験学習やまち探検を積極的に受け入れました。

○毎年１回開催される「図書主任会議」に参加して、各小中学校の図書主任教諭に対して、図書館の利用案内を行いました。

○これらの子どもの読書活動推進に関する取り組みが認められて、平成２４年度に文部科学省から「子どもの読書活動優秀実践図書館」として全国表彰されました。

●家庭での読書活動の習慣化を促す一助として、読書手帳の周知のため、学校等との連携についての検討が必要です。

【学校への貸出冊数等利用状況（平成２９年度)】

特別貸出	147件	3,458冊		
（内訳）小学校	15校	126件	3,053冊	
中学校	9校	21件	405冊	
おまかせ図書館便	8件	1,580冊		
（内訳）小学校	4校	8件	1,580冊	
中学校	0校	0校	0冊	
おはなし会	2校	18回（全学年で実施）		

＊マルチメディアデイジー…文字や音声、画像を同時に再生できるデジタル図書(CD-ROM)で、文字の大きさや読み上げ速度が自由に調整できます。

＊特別貸出 … 調べもの学習や授業の補助となる本を一定数まとめて貸し出す制度

＊おまかせ図書館便 … 図書館職員が選書した読み物を、学校単位や学年単位で長期間貸し出す制度

（２）公民館

○公民館１４館で図書貸出事業を行い、所蔵のない本は図書館へ配本を依頼するなど、読書環境の向上に努めました。

図書貸出事業

・中央公民館　・富来田公民館　・岩根公民館　・鎌足公民館
・金田公民館　・中郷公民館　・八幡台公民館　・東清公民館
・清見台公民館　・畑沢公民館　・岩根西公民館　・西清川公民館
・波岡公民館　・桜井公民館

○子育て学級等で図書館職員を講師に迎え、絵本についての講座やおはなし会の開催を通じて、家庭における読書活動の推進に努めました。

○中央公民館では、学童クラブとの共催事業としておはなし会を毎月開催し、地域の子どもたちへ読書の楽しさを伝える機会を設けました。

○富来田公民館では、月に２回の育児広場において、親子で楽しめるおはなし会として、わらべうたや絵本の読み聞かせなどを行いました。（平成２９年度まで）

○岩根公民館では、平成２８年度まで主催事業として毎月おはなし会を開催しましたが、平成２９年度からは学童クラブでの開催へとシフトしました。地域の子どもたちが読書の楽しさにふれる機会の提供として、読書活動の推進に寄与しました。文化祭では毎年おはなし会を実施し、多くの参加者に親しまれています。

○市内で唯一オンライン化されている富来田公民館図書室では、平成２６年度から月に２～４回図書館職員が在室し、利用者の読書相談等に応じています。

●図書室等の利用や貸出が増えるように利用しやすい環境作りについて検討が必要です。

●家庭での読書活動普及に関する事業の実施の充実が求められます。

３．学校における子どもの読書活動の推進

（１）子どもの読書習慣の確立

①学校図書館の整備・充実

○蔵書整備については、図書担当職員を中心として、読書相談員、学校支援ボランティアと連携し補修等を行い、整備状況の向上を図りました。また、季節に合わせた掲示物などを作成し、学校図書館内の環境整備を行いました。蔵書管理については、適正な管理に向け、蔵書点検を実施し、正確な蔵書数と蔵書の状態を把握しました。

○各小中学校でその年度に購入した図書のデータベースを作成し、まなび支援センターのホームページ上で情報の共有化を図りました。

【購入図書のデータベース化の状況】

	小学校	中学校
全　国	73.9%	72.7%
本　市	100.0%	100.0%
比　較	+26.1p	+27.3p

●学校図書館における蔵書数の配備状況が、小中学校ともに全国と比較して大きく遅れているため、再整備が必要です。

【図書標準達成学校数の割合】

	小学校	中学校
全　国	66.4%	55.3%
本　市	31.6%	23.1%
比　較	-34.8p	-32.2p

●学校図書館における新聞の配備状況が、小中学校ともに全国と比較して遅れているため、今後の検討が必要です。

【新聞の配備状況】

	小学校	中学校
全　国	24.5%	19.0%
本　市	15.7%	7.6%
比　較	-8.8p	-11.4p

【百科事典・図鑑等の配備状況】

	小学校	中学校
全　国	95.0%	94.1%
本　市	100.0%	69.2%
比　較	+5.0p	-24.9p

●蔵書の電子管理状況が､小中学校ともに全国と比較して大きく遅れていますので、今後の検討が必要です。

【電子管理を貸出・返却に活用】

	小学校	中学校
全　国	88.3%	85.6%
本　市	5.2%	0.0%
比　較	-83.1p	-85.6p

【児童生徒が使用可能なＰＣの整備状況】

	小学校	中学校
全　国	10.6%	12.5%
本　市	0.0%	0.0%
比　較	-10.6p	-12.5p

②読書相談員・学校支援ボランティアの積極的活用

○本市では、小中学校全校に学校司書として読書相談員を配置し、学校図書館の運営と読書活動の推進を図っています。また、図書に関するボランティアを小学校では全校が、中学校では全国平均を約３倍近く上回る数値で活用しています。

【学校司書の配置状況】

	小学校	中学校
全　国	59.3%	57.3%
本　市	100.0%	100.0%
比　較	+40.7p	+42.7p

【ボランティアの活用状況】

	小学校	中学校
全　国	81.4%	30.0%
本　市	100.0%	84.6%
比　較	+18.6p	+54.6p

【活用例】図書の整備、書架整理、本の修繕、読書相談、図書紹介、調べ学習支援、おはなし会、読み聞かせ、ブックトーク（本の紹介）、大型紙芝居、図書集会支援、図書便りの発行　等

【学校支援ボランティアによる読書活動の様子】

③読書時間の確保

○全校一斉の読書活動の実施率は、小中学校ともに１００％で全国平均を上回りました。小中学校ともにすべての学校で朝の読書タイムを実施しました。

【全校一斉活動の実施状況】

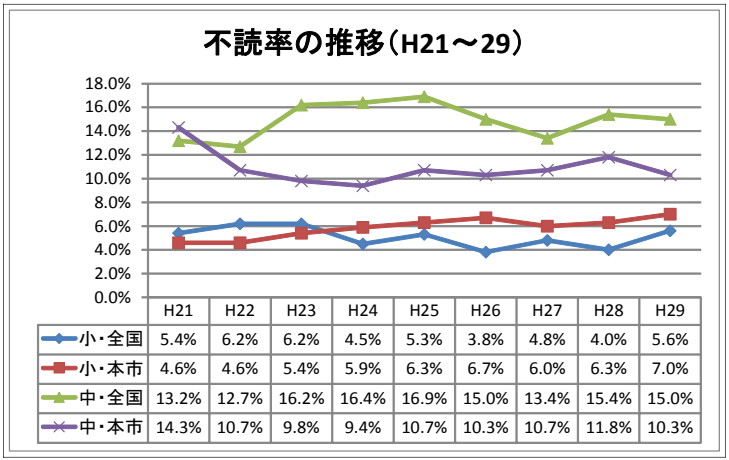
	小学校	中学校
全　国	97.1%	88.5%
本　市	100.0%	100.0%
比　較	+2.9p	+11.5p

※上記までの表については、
平成２８年度「学校図書館の現状に関する調査」
（文部科学省）より抜粋

○１か月に１冊も本を読まなかった不読者の割合（以下、不読率）の最近９年間の平均値は、中学校は全国平均より低くなっています。第３次木更津市子ども読書推進計画において本市は「不読率を全国平均以下とすること」を目標にしていたため、本市の目標を達成していることになります。小学校は、全国平均と比べてやや高い傾向にあります。

【不読率の平均値】（H21～29）

	小学校	中学校
全　国	4.6%	13.4%
本　市	5.3%	9.8%
比　較	+0.7p	-3.6p



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
小・全国	5.4%	6.2%	6.2%	4.5%	5.3%	3.8%	4.8%	4.0%	5.6%
小・本市	4.6%	4.6%	5.4%	5.9%	6.3%	6.7%	6.0%	6.3%	7.0%
中・全国	13.2%	12.7%	16.2%	16.4%	16.9%	15.0%	13.4%	15.4%	15.0%
中・本市	14.3%	10.7%	9.8%	9.4%	10.7%	10.3%	10.7%	11.8%	10.3%

第５５回～６３回「読書調査」（毎日新聞社・全国学校図書館協議会）

平成２１年度～２９年度「学校評価木更津システム」（木更津市教育委員会）より抜粋

○全校一斉以外の読書活動の取り組みでは、読み聞かせやブックトーク、＊ビブリオバトルなどが行われました。小学校では、多くの学校で読み聞かせが行われました。

○小学校では、全小学校が「読書週間」を設定して、学校独自の取り組みを行いました。（平成２９年度）

④「木更津子ども読書の日」の設定

○４月２３日を「木更津子ども読書の日」と位置づけ、小学校では５２．６％の学校が「木更津子ども読書の日」に取り組みを行いました。（平成２９年度）

【取組例】お話会、ブックトーク、読み聞かせ、全校一斉読書タイム、図書便りの発行、ポスター掲示、校内放送による呼びかけ　等

●中学校では、「子ども読書の日」の取り組みや「読書週間」を設定しての取り組みが、小学校と比較して低調ですので、今後の更なる工夫や検討が必要です。

⑤教職員、学校図書館担当者への意識啓発

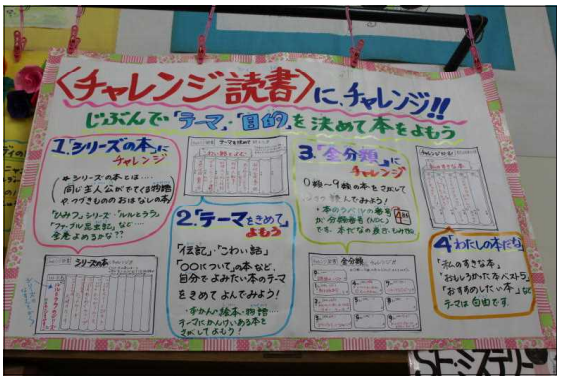
○図書主任会議を年１回開催して図書館との連携や情報交換等を行い、担当者への情報提供と意識啓発を図りました。

○読書相談員対象の研修会を年２回開催し、読書活動の充実に向けた学校図書館のあり方や授業に使える読書活動等に関する研修を行いました。また、スキルアップのためにお互いの実践に関する情報交換を行いました。

＊ビブリオバトル…本の紹介をしあうコミュニケーションゲーム

【学校図書館の環境】

ほんのき


〈チャレンジ読書〉にチャレンジ!!
じぶんで「テーマ」「目的」を決めて本をよもう
1.シリーズの本にチャレンジ
2.「テーマをきめて」よもう
3.「全分類」にチャレンジ
4.わたしの本だな

A Child is
新しい本の目印はコレ!!
あたらしくはいった本

ニッポン再発見!

本はともだち

（２）子どもの言語能力の育成

①各教科の様々な場面や単元の読書活動

○理科の星座の学習において、授業終了後、星座について書かれた本を教師が紹介し、読書活動につなげました。

○千葉県について調べる学習において、民話等を紹介し、読書活動につなげました。

②読書活動を位置づけるための単元の指導過程を工夫

○動物が主人公の物語文において、他の動物が主人公の本を紹介し、比べ読みをしました。

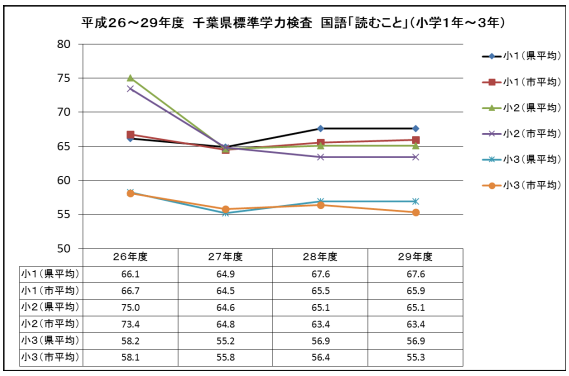
○教科書に出てくる特定の作者に焦点を当てることで、その作者の多くの作品に触れられるよう指導過程の工夫に努め、並行読書につなげました。

③読書行為の解釈の拡大

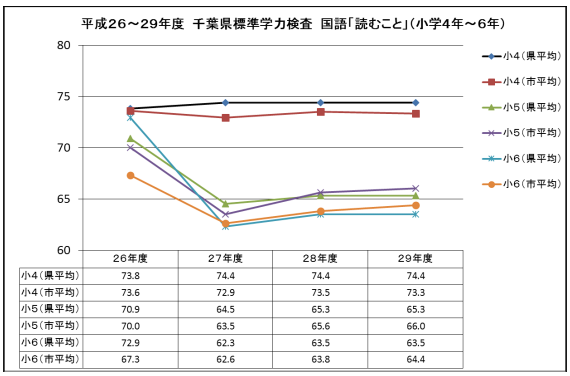
○複数の新聞の見出しを比較することで、新聞に対する興味を持たせ、読書行為につなげました。

○世界遺産の保護に関するリーフレット作りの中で、世界遺産の概要だけでなく、自然や環境を保護する視点を持って、読書活動を進めました。

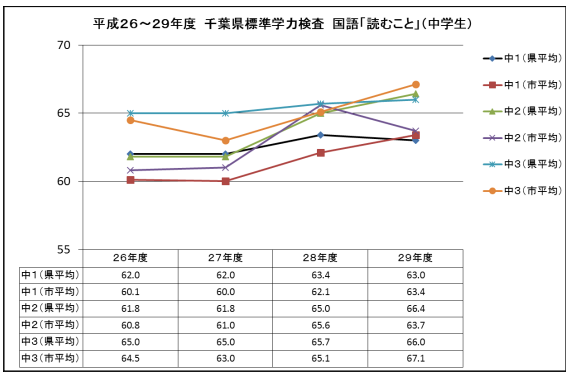
○本項目に対して、千葉県標準学力検査の国語「読むこと」の領域で県平均点を上回ることを目標として掲げました。その結果については、右記のグラフのとおりです。



	26年度	27年度	28年度	29年度
小1(県平均)	66.1	64.9	67.6	67.6
小1(市平均)	66.7	64.5	65.5	65.9
小2(県平均)	75.0	64.6	65.1	65.1
小2(市平均)	73.4	64.8	63.4	63.4
小3(県平均)	58.2	55.2	56.9	56.9
小3(市平均)	58.1	55.8	56.4	55.3



	26年度	27年度	28年度	29年度
小4(県平均)	73.8	74.4	74.4	74.4
小4(市平均)	73.6	72.9	73.5	73.3
小5(県平均)	70.9	64.5	65.3	65.3
小5(市平均)	70.0	63.5	65.6	66.0
小6(県平均)	72.9	62.3	63.5	63.5
小6(市平均)	67.3	62.6	63.8	64.4



	26年度	27年度	28年度	29年度
中1(県平均)	62.0	62.0	63.4	63.0
中1(市平均)	60.1	60.0	62.1	63.4
中2(県平均)	61.8	61.8	65.0	66.4
中2(市平均)	60.8	61.0	65.6	63.7
中3(県平均)	65.0	65.0	65.7	66.0
中3(市平均)	64.5	63.0	65.1	67.1

平成２６～２９年度「千葉県標準学力検査」（千葉県教育会館文化事業部）より抜粋

○平成２６年度は小学１年生、平成２７年度は小学２年生・３年生・６年生、平成２８年度は小学５年生・６年生・中学２年生、平成２９年度は小学５年生・６年生・中学１年生・３年生が県平均点を上回りました。

●子どもの言語能力の育成を目指した読書活動に関する先進的な取り組みの実践例を紹介するなどして、具体的な取り組み例を広めていくことが必要です。

●子どもの言語能力の育成を目指した読書活動の充実を図るための指導法の更なる工夫や開発に向けた研究が必要です。

第２章　第４次木更津市子ども読書活動推進計画について

Ⅰ　基本方針

子どもにとって読書活動とは、楽しい体験であると同時に、語彙力や読解力、想像力、思考力、表現力など様々な力を養うことができる欠くことのできないものです。また、読書を通じて得られる身近な大人とのふれあいの時間、楽しさや知る喜びを感じることは、子どもの心に深く刻まれ、その後の人生において、心の糧となり、生きる力として支えてくれます。

乳児期にたくさんの言葉や絵本にふれることで､その後の読書活動が豊かになります。そのためには、家庭や地域、学校等で読書環境を整え、子どもの読書活動を理解し、応援していくことが求められています。また、読書を身近に感じることで、読書習慣の形成を図ることができます。

学校教育でも、平成２９年３月に公示された学習指導要領では、言語能力を向上させる重要な活動である読書活動を充実させることが示されています。また、木更津市教育委員会の調査［平成２９年度「生活意識(規範)調査」(木更津市心の教育推進協議会)］では、読書量が多い児童生徒ほど、規範意識が高いという数値が出ています。すなわち、読書と規範意識との相関関係は密接であり、学習習慣の定着にも影響を与えていることが分かっています。

以上の観点から、木更津市教育委員会では以下の項目を方針の柱とします。

１　家庭・地域・学校等を通じた連携体制の確立
２　読書環境の整備・充実
３　読書習慣の形成

基本的には、一定の成果が得られた「第３次木更津市子ども読書活動推進計画」の理念や取り組みを、平成３０年４月に策定された国の第４次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を見据えながら、第４次も踏襲します。

Ⅱ　計画の期間

本計画の期間は、２０１９年度から２０２３年度とします。

Ⅲ　基本方針に対する具体的な取り組み

１．家庭・地域・学校等を通じた連携体制の確立

子どもが充実した読書活動を送るためには、家庭・地域・学校等が一丸となって子どもの読書活動を支えていくことが必要不可欠です。また、ボランティアの育成やボランティア活動の拡充を図り、市民とともに子どもの読書活動を盛り上げます。家庭・地域・学校等それぞれが関係機関と連携を深め、子どもの読書活動を支えていけるよう取り組みます。

（１）家庭

・図書館や公民館などが主催する各種講座へ参加することで、家庭での子どもの読書活動への理解や関心を深めます。
・子ども自身が読書や図書館を身近に感じ、読書活動への興味関心を持つように図書館の開催するおはなし会や､夏季休業期間に開催する事業への参加を促します。
・ブックスタート事業をきっかけにして、乳児期から家庭で絵本を通じたふれあいを積極的に取り入れます。

（２）地域

①図書館

・健康推進課主催の乳児健康診査時に、乳児と保護者１組ずつへ絵本の読み聞かせを行い、楽しい読書体験と絵本をプレゼントするブックスタート事業を実施し、家庭でのふれいあいの時間や読書活動への興味を持つきっかけ作りをします。
・小中学校の図書担当教諭へ「図書館利用案内」を配布し、特別貸出やおまかせ図書館便の利用について周知を図ります。
・小中学校との連携を更に強化し、読書相談や調べ学習への対応、団体貸出の利用について促進します。
・小中学校で実施されている職場体験学習を積極的に受け入れ、図書や読書活動に興味関心を持ってもらえるよう取り組んでいます。
・読書活動に関係のあるボランティア団体と連携・協力し、図書館事業でのボランティア活動の促進を図ります。また、ボランティア活動について研修できる場や機会を設けます。

②公民館等

・図書室のある公民館等では、図書館と連携・協力して蔵書の充実に努めます。
・図書貸出事業などを通して、子どもの読書活動の推進について、家庭・保護者への啓発活動を行います。

（３）学校

・便りの発行等による読書活動の普及や学校図書館の活用促進を図ります。
・学校支援ボランティアとの更なる積極的な連携を図ります。
・図書館との連携を図り、蔵書の貸し出しを行ったり、情報共有を密にしたりします。
・音読カード等を活用し、家庭での読書や読み聞かせ等の読書活動の推進を図ることで、家庭との連携を強化します。
・異学年でペアを組み、高学年が低学年に、または低学年が高学年に読み聞かせを行うことで交流を図ります。

２．読書環境の整備・充実

子どもが読書の楽しさを知り、自ら進んで読書活動に興味を持つためには、読書環境の整備・充実が重要です。図書館や公民館等の図書室、学校では成長の段階に合った良質な図書を揃え、蔵書の充実を図ります。その他、図書館を中心に、子どもの読書に関わる保護者からの相談などにも応じ、子どもが読書活動へ興味を持つよう選書の方法を工夫するなど様々な角度から環境の整備・充実に取り組みます。

（１）家庭

・図書館が発行している各種ブックリストを活用し、良質な図書を身近に置ける環境を整えます。
・各機関が開催する地域住民や保護者、子どもに向けての読書活動に関する講座やおはなし会へ参加し、読書活動へ関心を高めます。
・４月２３日の「木更津子ども読書の日」には、子どもの読書への関心を高められるよう家庭でも読書をする機会を設けます。

（２）地域

①図書館

・読書活動に関する様々な情報を、ホームページや図書館報「みんなの図書館」などを通じて、地域や家庭へ向けて発信します。
・良質な児童書を中心に、様々な子どもに対応した図書を図書館資料収集要綱にのっとって幅広く選書し、蔵書の充実を図ります。
・乳児から大人まで読書に興味を持ってもらうことを目的とし、様々な年代を対象にしたおはなし会を開催します。
・児童文学講座、絵本講座などの各種事業の開催を充実させ、保護者に家庭での読書環境について理解を深めます。
・子どもが安全に安心して図書を選べるよう、館内の見回りと書架整理に細心の注意を払います。
・保育園や育児サークルなどを対象としたおはなし会の開催を継続し、おはなしや絵本の楽しさを知ることで、読書活動へ興味を持ってもらうきっかけづくりをします。
・小中学校からの要請に応じ、職場体験学習等を積極的に受け入れます。
・通常の読書活動が苦手な子どもへ向けて、マルチメディアデイジーの活用について積極的に周知を行い、誰でも読書の楽しみを体験できるような環境づくりに取り組みます。
・４月２３日を「木更津子ども読書の日」と位置づけ、図書館を中心に読書活動を呼びかけるポスターの掲示や関連した内容での展示を開催し、子どもが読書に興味を示すような活動を呼びかけ実施します。

②公民館等

・地域住民を対象とした読書活動に関する様々な情報を、ホームページや「公民館

だより」などを通じて、地域や家庭へ向けて発信します。
・公民館図書室が身近な図書室として利用されるよう、蔵書の充実を図ります。
・公民館図書室等での予約やリクエストサービスについて、公民館だより等を通じて周知を行い、サービスの充実を図ります。

（３）学校

・蔵書の量的、質的な充実を図り、学校図書館図書標準（文部科学省）の達成を目指します。
・発達段階に応じた図書の選定を行い、読書活動の充実を図るとともに、子どものニーズにあった選書を行い、読書意欲を喚起します。
・掲示物の作成や蔵書点検等を行い､学校図書館内の環境整備の充実を目指します。
・蔵書の電子管理化について検討していきます。
・小中学校に配置している読書相談員を積極的に活用します。
・情報交換やスキルアップのために、読書相談員研修会を年２回開催します。
・学校支援ボランティアと連携し、読書環境の整備・充実に努めます。
・図書館との連携を図り、蔵書の貸出や情報共有等に努めます。
・障害のある児童生徒も含め、すべての児童生徒が自分の興味の持てる本に進んで手を伸ばすことができるよう、図書室内の配架の工夫や情報の整理を行います。

３．読書習慣の形成

子どもが読書習慣を身につけるためには、身近な大人が読書活動に関心を寄せることが大切です。乳幼児期に身近な大人と楽しい読書時間を共有することは、子どもの心に深く刻まれ、その後の読書活動に影響を与えます。また、物語の主人公になりかわって心を動かす体験や、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを得ることで、読書活動に親しみを持ちます｡読書習慣の形成へつながるよう積極的に情報を発信し読書活動の啓発を図ります。

（１）家庭

・図書や図書館を身近に感じ、読書活動へ興味を持つよう、乳児期から一緒に図書館を利用します。
・自分が読んだ本を記録することで、より読書を身近に感じ、読書に愛着を持ち、更なる読書活動へつなげるよう図書館が発行している読書手帳を活用します。

（２）地域

①図書館

・子どもの発達段階に応じ、おすすめの絵本のブックリストを作成し、図書を選ぶ際の参考になるよう配付します。
・夏季休業期間前に各小中学校児童生徒一人一人にブックリスト「夏休みにおすすめの本」を作成し、配付します。
・夏季休業期間に、小中学生を対象とした事業を実施し、図書館を身近に感じるこ

とで、読書活動に親しみを持ってもらえるよう取り組みます。

②公民館等

・地域住民や保護者が、子どもの読書活動に理解や関心を持つような講座を開催します。
・地域住民が参加できるおはなし会などを開催し、図書に親しむ機会を設けます。
・地域にある身近な図書室として、地域の子どもと保護者が利用されるよう図書室の整備に取り組みます。

（３）学校

・学校ごとに読書タイムや読書集会等を設定し、子どもの読書時間を確保します。
・大人による読み聞かせ等により、子どもたちが本に触れる機会を確保するとともに、子どもたちの読書に対する興味関心が高まるような工夫をします。
・子ども同士による図書の紹介や読書経験の共有により、様々な図書に触れる機会を確保します。
・読書活動の振り返りや読書冊数の目標設定等により、読書の記録をつけるなどの取り組みをします。
・教職員の読書に対する理解と指導力の向上を図ります。
・小中学校に全校配置されている読書相談員を積極的に活用します。
・学校支援ボランティアと連携し、読み聞かせ等の活動を更に充実させます。

以上のような取り組みを通し、家庭・地域・学校等を基盤として、子どもの読書活動の更なる充実を目指していくものとします。

Ⅳ　第４次木更津市子ども読書活動推進計画の概要

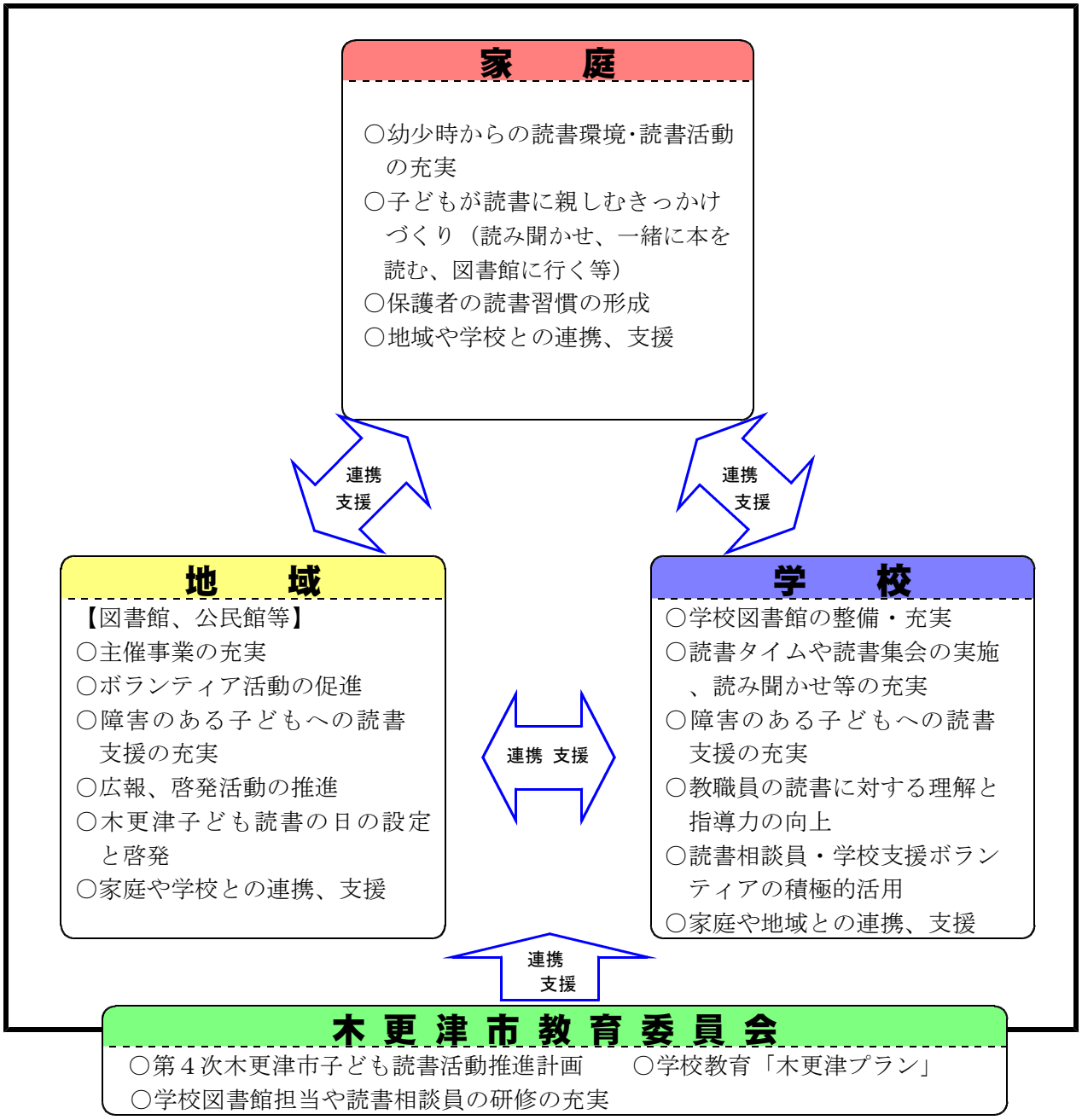
基本方針

１　家庭・地域・学校等を通じた連携体制の確立
２　読書環境の整備・充実
３　読書習慣の形成

期　間

２０１９年度　～　２０２３年度（５か年）

推進体制等（体系図）



第４次木更津市子ども読書活動推進計画
－木更津読書プラン－

発行者　木更津市教育委員会

事務局　木更津市立図書館

〒292-0804　千葉県木更津市文京２－６－５１　　TEL　0438(22)3190
E-mail　tosho@city.kisarazu.lg.jp
URL　www.lib.kisarazuchiba.jp

木更津市教育委員会学校教育課・生涯学習課

〒292-8501千葉県木更津市朝日３－１０－１９　　TEL　0438(23)5264
E-mail　gakukyou@city.kisarazu.lg.jp
URL　http: //www.kisarazu.ed.jp/

発行日　平成３１(2019)年４月１日

印刷所　川名印刷

きさポン